

令和2度 室蘭市地域包括支援センター運営協議会（書面開催）会議録【要旨】

1. 日 時 : 令和2年11月10日(火)
2. 審議委員: 野尻会長、山中委員、宮澤委員、藤田委員、福島委員、見上委員、
荒川委員

3. 議題

1) 報告

- | | |
|---|---------|
| (1) 室蘭市地域包括支援センター運営状況について | (資料2-1) |
| (2) 室蘭市認知症地域支援推進員活動状況について | (資料2-2) |
| (3) 室蘭市認知症初期集中支援チーム活動状況について | (資料2-3) |
| (4) 令和元年度室蘭市地域包括支援センター運営方針 | (資料3) |
| (5) 室蘭市地域包括支援センター令和元年度事業報告
及び令和2年度事業計画 | (資料4) |

2) 令和元年度 各運営状況に関する評価及び意見について

(1) 室蘭市地域包括支援センター運営状況について

質問 総合相談の内容の介護保険制度、介護全般、心身の健康状態、認知症についての具体的な内容は。

回答 各相談の具体的な内容の例としては下記の通りです。

①【介護保険（制度・内容）】

- ・認知症の低下あり、夫や娘へ暴言ひどく興奮する。介護保険の申請や病院受診について教えてほしい。
- ・息子より相談。父が独居、昨年末から身体の痛み出現。布団から起き上がりや着替えが大変になってきたため、介護保険の申請をしたいがどのようにしたらよいか。
- ・介護認定がついたが、どのようにしたらサービスを利用できるのか。
- ・まもなく退院予定で、在宅に戻るため介護保険のサービスを利用したい。

②【介護全般】

- ・介護拒否のある方の病院受診についての相談。
- ・閉じこもりでうつ傾向になっている。気分転換に外出をさせたい。
- ・自分も介護認定を受けており、妹の面倒をみられないがどうしたらよいか。

③【心身の健康状態】

- ・急に視力が低下したので生活に不安がある。どうしたらよいか。医療機関の受診等について相談。
- ・交通事故の後、身体が痛くて困っている。

【認知症について】

- ・本日、包丁を持って暴れた。警察へ通報はしたが誰にも危害は加えていないため警察は退去、困ったとの相談。（*病院受診調整し入院となった）
- ・認知症があり被害妄想や執着心が強く、服薬管理が困難となっている方への支援の相

談。

- ・認知症の診断を受けた。認知症進行の予防のためにどのような方法があるか教えてほしい。

質問 地域ケア会議での地域サロンの活性化・交通事故・買い物支援等での具体的内容。

回答 会議の具体的な内容の例としては下記の通りです。

①【地域サロンの活性化について（母恋地区）】

国では高齢者の閉じこもり予防、生きがいづくりや健康増進を図るために、住民主体による自主的な通いの場づくりを推進しており、地域サロンの拡大・活性化が必要となっています。

地域サロン同士で意見交換をする機会が少ない状況から、サロン運営者等に出席いただき地域ケア会議を実施。サロンの課題として参加者の減少、男性参加者が少ない、今後のサロンの運営を担う人材の確保等がわかりました。また、お互いの活動内容についてアイデアや、運営面でも運営資金や講師調整など情報交換もできました。

②【交通事故から高齢者を守るには（白鳥ハイツ）】

「事故の状況と歩行時にできる安全対策」「運転免許証自主返納のサインとタイミング」「返納後の生活について」など室蘭警察署より講話をいただき、地域での見守りや声かけなど配慮のあり方についてグループワークを実施。地域包括支援センターや市の他、主に町会や民生委員児童委員協議会、福祉協議会の方が出席されました。

③【買い物支援について（母恋地区）】

買い物の現状についてのアンケート結果から、母恋地区は坂が多く、近くに買い物できるお店が少ない地域であり、「移動販売」「送迎つき買い物」を希望する声が多く聞かれました。H30年度、地域ケア会議において意見交換を行い、坂の上に住宅がある住民が困難を感じていること、買い物は実際に目で見て購入したい、荷物を配達をしてほしいとの要望があることを把握。移動販売側においても集客が見込め、駐車場所の確保が必要などの要件もあり、これら双方の要望が適う策を今後検討が必要との話し合いとなりました。

翌年、R元年度にも同様のテーマで地域ケア会議を開催。移動販売車の場所まで移動できないという声もあり、地域の事業所から高齢者宅へ行って注文を取り、移動販売車で買い物をして届ける協力はできるとの提案も出されました。しかし、自分で商品を見て買いたいという人も多く、地域のニーズの掘り下げや具体案を明確にしていく必要があるとの話し合いとなりました。

質問 ケアマネジメント支援業務が白鳥ハイツ、母恋が多いのは高齢化率が他より高いためか。

回答 地域包括支援センターの「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」は、地域における連携・協同の体制作りや個々の介護支援専門員に対する支援ですが、白鳥ハイツ・母恋圏域はことぶき・憩圏域と比べ、居宅介護支援事業所や地域密着型入所施設が多く、連携や介護支援専門員への支援も多くなっています。

質問虐待件数が憩、ことぶき圏域が多い理由は。

回答虐待件数については、各圏域で年度により変化あります。R元年度は憩が実数が多くなり、ことぶきは延べ数が多くなりました。

意見運営の実績報告を見ますと、以前から感じておりましたが、4包括の実績に大きな差が拡大しているように感じております。

1例としまして、総合相談支援業務の実績では、H28に認知症地域支援推進員の2名配置、H30年には2名の増員となっており、これによりH27年度と比較してH28年度には4包括で876件の大幅な増加、その後の各包括のH27年度とR1年度対比で白鳥ハイツが498件の増、母恋が100件、ことぶきが153件、憩が195件の増加となっており、白鳥ハイツと母恋では5倍、ことぶきとは3.3倍、憩とは2.6倍と格差が生じており、これらを件数ではなく実対応で想定しますと更なる実務の過多が白鳥ハイツでは生じているものと考えます。

結果として他の業務にも多大な影響を与える結果と成っているものと想定します。従って、今後の人口推計や高齢者動向も含めた地区の見直し、および委託費（増員？）の見直しなど、現状に沿った地域包括支援センターの在り方を再検討する時期と考えます。また、この場合、地域の見守りも含めた地域福祉委員・民生委員との地区割も考慮した方が地域とのネットワーク化が図れるものと考えます。

回答ご指摘のとおり、日常生活圏域設定後15年が経過し、高齢者人口、前期高齢者数、後期高齢者数、高齢化率等個々の圏域により差が生じている現状です。次期計画の中でも、立地適正化計画の居住誘導区域や医療機関の状況、各地区における高齢者数の推計等も念頭におき、より効率性・利便性の良い圏域設定について検討することを明記しており、既に地域包括支援センターとはその協議を始めているところです。

意見民生委員児童委員協議会（民児協）は12地区に分割運営されていて、各地区は4つの包括支援センターの担当別に支援をお願いして活動しています。

定常的な交流としては民生委員に持ち込まれる相談ごと（介護・認知症・高齢者暴力・健康など多岐にわたる）に個別に対応していただいております。案件によってはケア会議の開催や介護認定の実施へと繋がっていきます。特に初任の委員や経験の浅い委員にとっては非常に頼りになる存在で、一緒に事を進めさせてもらっていて解決に道筋がたちます。また、地区民児協の月次定例会に参加していただき、前述の相談ごとの進捗などの報告や、包括支援センターの活動などを紹介していただいております。例えば東明地区民児協に於いては定例会議に交流会として年2回の配置を目標にしています。また、『認知症サポーター養成講座』の地区内開設などもこうした交流会のアウトプットのの一つとして実施しています。

今後とも各地区民児協とも地区定例会での包括支援センターとの交流会を基本として、支援を受けながら運営していく所存です。

意見 業務多忙なのに、4包括支援センター少ない職員体制でよく頑張っていると思います。

意見 4センターとも、総合相談支援・包括的継続的ケアマネジメント支援・権利擁護・介護予防ケアマネジメントの各業務につき適正に実施されているものと認めます。

意見 各方面との連携が構築されていて素晴らしい活動をしていると思います。

(2) 室蘭市認知症地域支援推進員活動状況について

質問 徘徊搜索マニュアルの利用状況は。

回答 マニュアルを配布した各機関へ利用状況を確認はしていませんが、施設からは「入所者について事前登録で使用している同様の搜索シート（マニュアルに掲載シート）を作成し、行方不明時に対応できるようにした」などの声が聞かれています。

また、行方不明の通報が入った時や発見時の情報伝達がスムーズになりました。

意見 民生委員児童委員協議会は前述の如く分割運営されていて、各地区により若干の差はある。

『認知症サポーター養成講座』は地区民児協の要望により、出前講座を開設していただいております。民生委員のオレンジリング取得者の向上に貢献していただいております。

『徘徊搜索模擬訓練』に関しては、包括支援センター側からの起案で地域指定をして貰い地区民児協として、当該地域の福祉委員や住民への出席勧誘協力などさせていただいた。搜索訓練に当たっては、参加者の認知症患者への接し方などアドバイスをいただき、今後も市内各地区の民生委員が経験することが望ましいと思う。

『認知症カフェ』現在4カフェの支援を貰っているが、認知症患者の増加は必須で、これからも運営面や開設で幅広い支援をお願いします。

意見 認知症高齢者等徘徊搜索模擬訓練の実施について、1年間で各包括支援センターで1カ所ずつでは少ないと思います。

認知症地域支援推進員が各センターに1名ずつでは少ないと思いますが、その中で回数を増やす取組を考えてみてはいかがでしょうかと思います。

回答 徘徊搜索模擬訓練は、地域の住民に認知症について正しく理解していただき、搜索時に御協力いただくための重要な取組みと認識しておりますが、コロナ禍等の影響もあり、予定通り進めることが難しい現状にあります。今後も地域の実情もみながら進めます。

質問 徘徊搜索模擬訓練にはどのような方が参加されているのでしょうか。

徘徊搜索模擬訓練の参加者は、地域住民・町会・民生委員児童委員・福祉委員・介護保険事業所・室蘭警察署・地域の医療機関（医師等）・薬局・室蘭福祉事業協会・地域包括支援

センター・認知症初期集中支援チーム等が参加、たくさんの方のご協力をいただき実施しています。

質問 事前登録システムの継続者が少ないのはどうしてか。

回答 入院や施設入所、身体的に歩行が困難になる等で徘徊の恐れがなくなると登録を終了しており、継続者は多くはない状況。2～3年で登録終了される方が多い状況です。

意見 連携支援・相談支援・周知活動とも適正に実施されているものと認めます。

意見 認知症高齢者等徘徊搜索模擬訓練にH30に参加させていただきました。身近な地区での開催により、適切な対応が周知できたと思う。

(3) 室蘭市認知症初期集中支援チーム活動状況について

質問 認知症初期集中支援チーム完全終結後、医療介護サービスに結びつかなかったケースはその後どうなるか。

回答 認知症初期集中支援チームは、地域包括支援センターからの依頼により訪問としており、関係機関と密に連携をとりながら支援しています。

サービスに結びつかなく認知症初期集中支援チームが完全終結した場合も、引き続き地域包括支援センターや担当のケアマネジャーが継続支援をしています。

意見 『地域ケア会議』は包括支援センター側からの起案で地域指定をして貰い、地区民児協として、一部当該地域の福祉委員や住民への出席勧誘協力などさせていただいている。地域の福祉問題全般について必須な会議であり、また貴重な意見交換の場である。今後も室蘭全般で地域に漏れなく開催を計画し、個別案件含めて推進して欲しい。

意見 チームの果たすべき役割に照らして最も重要と考えられる「対象把握から介入開始までの期間」及び「医療・介護への引継ぎ」につき適切に振り返りがなされており、きわめて適正に実施されているものと認めます。

意見 数多くの模擬訓練や養成講座が行われており、大変有意義なチームであると思う。